



平成 25 年からの西之島沖噴火による新たな陸地の形成・拡大について (第四報)

平成 25 年 11 月 20 日に西之島の南東約 500m の海上で新島の形成が確認された。その後も新島の噴火は継続し、新島の面積は拡大を続け西之島と一体になった。

国土地理院は、平成 25 年 12 月 4 日、17 日、平成 26 年 2 月 16 日に空中写真を撮影、それぞれ地形判読図を作成した。その後、3 月 22 日に無人航空機 (UAV) を用いた第 4 回目の空中写真撮影を行い、3 月 28 日に写真判読による地形判読図を作成した。写真判読により判明したことは以下のとおりである。

- ① 火砕丘が 2 つあり、火砕物や噴煙を盛んに出して活動している。このうち、北側の火砕丘の火口が 1 つ増え、2 つになった。
- ② これまで継続的に溶岩流を噴出してきた南側火砕丘西縁の火口 (溶岩噴出口) の北側にも溶岩流噴出の中心となる火口があることが溶岩流の流下方向の軌跡から確認できた。
- ③ 2 つの火口 (溶岩噴出口) から全方向に溶岩流が流下し、新たな陸地の面積は拡大している。